

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月12日

上場会社名 21LADY株式会社

上場取引所 名

コード番号 3346 URL <http://www.21lady.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 藤井 道子

問合せ先責任者 (役職名) 経営管理担当取締役

(氏名) 北川 善裕

TEL 03-3556-2121

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日

未定

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	1,664	△39.4	△148	—	△141	—	△138	—
21年3月期第3四半期	2,747	—	△242	—	△236	—	△267	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	△3,256.71	—
21年3月期第3四半期	△6,276.23	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	1,408	417	28.0	9,377.04
21年3月期	1,678	550	31.7	12,477.50

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 393百万円 21年3月期 531百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	0.00	—		
22年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,208	△35.9	△52	—	△46	—	△64	—	△1,509.77

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)
- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
 - ② ①以外の変更 無
- (4) 発行済株式数(普通株式)
- | | | | | |
|----------------------|-------------|---------|-------------|---------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 22年3月期第3四半期 | 43,947株 | 21年3月期 | 43,947株 |
| ② 期末自己株式数 | 22年3月期第3四半期 | 1,940株 | 21年3月期 | 1,320株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) | 22年3月期第3四半期 | 42,549株 | 21年3月期第3四半期 | 42,627株 |

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想には、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績はその情報の不確実性のほか、様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、引続き厳しい状況にあり生産活動が上向くなど一部に持ち直しの動きが見られるものの、雇用環境の悪化による個人消費の低迷で消費動向は大きく減退し、消費不振とデフレの影響が鮮明になってきました。

このような状況の中、ヒロタ事業におきましては、前期に引き続きヒロタのブランド力強化を最重要課題とし、全社員一体となって2009年度経営計画を推進しました。

具体的な施策としましては、直営店を中心にオリジナルシュークリームの売上向上に努めると共に、近年積極的に取組んでおります「ディスカバージャパン」の展開で全国各地から優れた食材の選択を考え、「ビアドパパ」を展開する株式会社麦の穂とのコラボレーションにより、美と健康をテーマとした国産野菜シューアイスを投入しました。

また、収益構造を確立すべく更なるコスト削減計画を策定し、原価率の低減、物流費の見直し及び店舗運営における組織構造の簡素化を推進し、経費削減に引き続き注力してまいりました。なお、当第3四半期連結累計期間末の直営店舗数は47店舗となっております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績につきましては、売上高1,664,364千円(前年同期比60.6%)となりました。営業損失は148,965千円(前年同期242,999千円の営業損失)、経常損失は141,309千円(前年同期236,975千円の経常損失)、四半期純損失は138,569千円(前年同期267,537千円の純損失)となりましたが、経営効率化が進んでおり、前年同期と比べ収益は改善されつつあります。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ270,168千円減少し1,408,475千円となりました。

負債は、前連結会計年度末に比べ136,859千円減少し、991,329千円となりました。これは主に、流動負債において1年内返済予定の長期借入金が48,413千円、固定負債において長期借入金が75,334千円減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ133,309千円減少し、417,145千円となりました。これは主に、当第3四半期純損失138,569千円によるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、430,613千円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は以下のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、37,707千円の収入となりました。収入の主な内訳は、減価償却費76,474千円、未払金の増加49,674千円、売上債権の減少72,570千円であり、支出の主な内訳は、固定資産売却益38,490千円、税金等調整前四半期純損失111,058千円であります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

当第 3 四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、365,721千円の収入となりました。収入の主な内訳は、関係会社株式の売却による収入212,431千円であり、支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出25,915千円であります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

当第 3 四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、164,764千円の支出となりました。支出の主な内訳は、長期借入金の返済による支出123,747千円であります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

業績予想に関しましては、平成21年11月13日開示の「業績予想の修正に関するお知らせ」以降変更ございません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はございません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はございません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	430,613	191,948
売掛金	161,999	234,569
商品及び製品	23,624	23,714
仕掛品	1,844	1,652
原材料及び貯蔵品	31,080	35,527
その他	32,369	36,538
貸倒引当金	△280	△400
流動資産合計	681,251	523,551
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	247,637	341,589
土地	79,937	130,037
その他(純額)	156,893	200,763
有形固定資産合計	484,468	672,390
無形固定資産	76,600	100,503
投資その他の資産		
投資有価証券	48,543	260,872
その他	123,510	127,101
貸倒引当金	△5,898	△6,053
投資その他の資産合計	166,155	381,920
固定資産合計	727,223	1,154,814
繰延資産	—	278
資産合計	1,408,475	1,678,643

(単位：千円)

	当第 3 四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	130,201	114,474
短期借入金	17,284	19,425
1年内返済予定の長期借入金	108,356	156,769
未払法人税等	6,812	12,192
未払費用	98,782	179,141
未払金	167,058	60,099
その他	53,254	73,994
流動負債合計	581,748	616,096
固定負債		
長期借入金	124,244	199,578
負ののれん	2,806	3,978
長期未払金	180,568	182,315
その他	101,962	126,220
固定負債合計	409,581	512,092
負債合計	991,329	1,128,188
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	771,632
資本剰余金	493,387	846,875
利益剰余金	△124,565	△1,011,116
自己株式	△76,474	△73,354
株主資本合計	392,347	534,037
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,553	△2,159
評価・換算差額等合計	1,553	△2,159
少数株主持分	23,244	18,576
純資産合計	417,145	550,455
負債純資産合計	1,408,475	1,678,643

(2)【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	2,747,252	1,664,364
売上原価	1,204,050	693,470
売上総利益	1,543,201	970,894
販売費及び一般管理費	1,786,201	1,119,859
営業損失(△)	△242,999	△148,965
営業外収益		
受取利息	374	64
受取配当金	1,539	777
負ののれん償却額	2,665	1,172
持分法による投資利益	8,484	11,631
その他	6,012	2,711
営業外収益合計	19,075	16,357
営業外費用		
支払利息	11,665	7,972
その他	1,386	728
営業外費用合計	13,051	8,701
経常損失(△)	△236,975	△141,309
特別利益		
固定資産売却益	—	50,511
投資有価証券売却益	6,902	15,814
その他	757	275
特別利益合計	7,660	66,601
特別損失		
投資有価証券評価損	5,777	—
投資有価証券売却損	10,345	—
店舗閉鎖損失	9,194	3,038
関係会社株式売却損	—	19,184
固定資産売却損	—	12,020
その他	2,421	2,106
特別損失合計	27,738	36,350
税金等調整前四半期純損失(△)	△257,053	△111,058
法人税、住民税及び事業税	8,100	7,023
法人税等調整額	2,476	15,820
法人税等合計	10,576	22,843
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△92	4,668
四半期純損失(△)	△267,537	△138,569

【第3四半期連結会計期間】

(単位:千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
売上高	874,761	483,944
売上原価	403,942	214,603
売上総利益	470,819	269,341
販売費及び一般管理費	558,641	339,070
営業損失(△)	△87,822	△69,728
営業外収益		
受取利息	117	12
負ののれん償却額	370	390
持分法による投資利益	454	—
その他	1,159	581
営業外収益合計	2,101	984
営業外費用		
支払利息	3,682	2,287
その他	146	118
営業外費用合計	3,829	2,405
経常損失(△)	△89,550	△71,150
特別利益		
固定資産売却益	—	50,511
その他	251	5
特別利益合計	251	50,516
特別損失		
投資有価証券評価損	124	—
投資有価証券売却損	671	—
固定資産除却損	1,246	26
店舗閉鎖損失	429	80
固定資産売却損	—	12,020
その他	—	202
特別損失合計	2,472	12,329
税金等調整前四半期純損失(△)	△91,770	△32,963
法人税、住民税及び事業税	2,562	2,634
法人税等調整額	△154	15,949
法人税等合計	2,408	18,584
少数株主利益	354	4,660
四半期純損失(△)	△94,533	△56,208

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△257,053	△111,058
減価償却費	111,042	76,474
減損損失	816	524
貸倒引当金の増減額(△は減少)	735	△275
受取利息及び受取配当金	△1,914	△841
支払利息	11,665	7,972
固定資産売却損益(△は益)	—	△38,490
固定資産除却損	1,576	1,581
投資有価証券売却損益(△は益)	3,443	△15,814
投資有価証券評価損益(△は益)	5,777	—
店舗閉鎖損失	9,194	3,038
関係会社株式売却損益(△は益)	—	19,184
持分法による投資損益(△は益)	△8,484	△11,631
負ののれん償却額	△2,665	△1,172
売上債権の増減額(△は増加)	△68,131	72,570
たな卸資産の増減額(△は増加)	△13,786	4,344
仕入債務の増減額(△は減少)	80,530	15,726
未払金の増減額(△は減少)	92,424	49,674
未払費用の増減額(△は減少)	—	△15,310
長期未払金の増減額(△は減少)	△397	△1,663
その他	41,094	△4,386
小計	5,867	50,446
利息及び配当金の受取額	7,026	7,794
利息の支払額	△11,466	△7,762
法人税等の支払額	△13,293	△12,770
営業活動によるキャッシュ・フロー	△11,865	37,707
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△22,000	—
定期預金の払戻による収入	22,000	—
有形固定資産の取得による支出	△99,623	△25,915
有形固定資産の売却による収入	—	201,750
無形固定資産の取得による支出	△6,261	—
投資有価証券の取得による支出	—	△9,989
投資有価証券の売却による収入	73,985	3,137
敷金及び保証金の差入による支出	△2,000	△1,740
敷金及び保証金の回収による収入	41,446	8,420
出資金の回収による収入	4,633	—
関係会社株式の売却による収入	—	212,431
預り保証金の返還による支出	—	△21,600
その他	832	△772
投資活動によるキャッシュ・フロー	13,012	365,721

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	24,300	4,000
短期借入金の返済による支出	△6,375	△6,141
長期借入れによる収入	50,000	—
長期借入金の返済による支出	△165,749	△123,747
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△17,001	△19,182
社債の償還による支出	△16,700	△16,500
自己株式の取得による支出	—	△3,194
財務活動によるキャッシュ・フロー	△131,525	△164,764
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△130,379	238,664
現金及び現金同等物の期首残高	340,701	191,948
現金及び現金同等物の四半期末残高	210,321	430,613

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

当社グループは、前連結会計年度において営業損失343,122千円、経常損失336,523千円、当期純損失214,613千円を計上しました。

また、当第3四半期連結累計期間においても、営業損失148,965千円、経常損失141,309千円、四半期純損失138,569千円を計上しております。

当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループの連結子会社である(株)洋菓子のヒロタにおいて、平成20年11月7日開催の取締役会で策定した「経営計画」に基づき、「原価率の改善」及び「販売費及び一般管理費率の改善」を中心としたコスト構造の見直しにより損益分岐点を下げ、減収の中でも「直営店舗戦略の見直しによる収益改善」、「卸売の進展と安定化」及び「新商品提案」により利益確保ができる体制を目指し、業績改善に取り組んでおります。

資金面においては、引き続き「選択と集中」とポートフォリオの組み替えを実行し、当社所有不動産の一部売却を行いました。

しかし、これらの対応策は実施途上にあり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

	ヒロタ事業 (千円)	投資(コンサル ティング) 事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	2,555,870	8,361	183,020	2,747,252	—	2,747,252
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	89,194	—	14,400	103,594	(103,594)	—
計	2,645,065	8,361	197,420	2,850,847	(103,594)	2,747,252
営業利益又は営業損失(△)	△ 154,182	△ 4,275	21,037	△ 137,420	(105,579)	△ 242,999

(注) 1 事業区分は、収益構造及び出店形態を考慮して区分しております。

2 各事業の主なサービス内容

①ヒロタ事業……「HIROTA」等、店舗運営業務製品販売業

②投資(コンサルティング)事業……ブランド力のある企業を投資対象とした投資活動業務、チェーンストア運営に関するアドバイザー業務

③その他事業……不動産賃貸業務、上海モダン業務

当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

	ヒロタ事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	1,537,529	126,834	1,664,364	—	1,664,364
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,117	—	4,117	(4,117)	—
計	1,541,646	126,834	1,668,481	(4,117)	1,664,364
営業利益又は営業損失(△)	△ 74,425	8,732	△ 65,692	(83,272)	△ 148,965

(注) 1 事業区分は、収益構造及び出店形態を考慮して区分しております。

2 各事業の主なサービス内容

①ヒロタ事業……「HIROTA」等、店舗運営業務、製品販売業務

②その他事業……不動産賃貸業務、上海モダン業務

3 第1四半期連結会計期間より、事業区分を従来の「ヒロタ事業」「投資(コンサルティング)事業」及び「その他事業」の3区分から、「ヒロタ事業」「その他事業」の2区分に変更しました。これは、「投資(コンサルティング)事業」において、京都21ライフスタイルファンドが運用期間を終了し精算したことに伴い、売上高及び営業費用の計上が無くなったことによります。

4 「その他事業」に属する資産は、当第3四半期連結累計期間において賃貸用の土地・建物127,120千円を売却したことにより、前連結会計年度末に比べて著しく減少しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は平成21年8月1日付けで減資を行いました。この結果、第2四半期連結会計期間において資本金671百万円、資本準備金546百万円がそれぞれ減少しており、その他資本剰余金193百万円、利益剰余金1,025百万円が増加しております。

この結果、第3四半期連結会計期間末における資本金は100百万円、資本準備金は100百万円、その他資本剰余金は393百万円となっております。

6. その他の情報

表示方法の変更

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間において、特別利益の「その他」に含めていた「固定資産売却益」は重要性が増加したため、当第3四半期では区分掲記することとしております。なお、前第3四半期連結累計期間の特別利益の「その他」に含まれる「固定資産売却益」は81千円であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「未払費用の増減額(△は減少)」は重要性が増加したため、当第3四半期連結累計期間では区分掲記することとしております。なお、前第3四半期連結累計期間の「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含まれる「未払費用の純増加額」は31,543千円であります。

前第3四半期連結累計期間において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「有形固定資産の売却による収入」は重要性が増加したため、当第3四半期連結累計期間では区分掲記することとしております。なお、前第3四半期連結累計期間の「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含まれる「有形固定資産の売却による収入」は81千円であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

前第3四半期連結会計期間において、流動負債の「その他」に含めていた「未払金」は負債及び純資産の合計額の100分の10を超えたため、当第3四半期連結会計期間では区分掲記することとしております。なお、前第3四半期連結会計期間の流動負債の「その他」に含まれる「未払金」は158,959千円であります。